

大阪定期能楽公演 梅猶会 12月公演 大槻能楽堂

定期公演 午後1時開演 [開場12時30分]

～ 解説 ～ 10分

能[俊寛] Shunkan 85分

シテ 俊寛	井戸 良祐	後見 梅若 猶義
ツレ 康頼	林本 大	梅若 雅一
ツレ 成経	今村 哲朗	地謡 梅若 基徳
ワキ 赦免使	原 大	寺澤 幸祐
間 徒者	善竹 隆司	井戸 和男
笛	野口 亮	水田 雄晤
小鼓	成田 奏	立花 香寿子
大鼓	山本 哲也	永田 克壬

～ 休憩 10分 ～

舞囃子[融] Toru 20分

シテ 融大臣	梅若 堯之	地謡 梅若 修一
笛	野口 亮	梅若 雅一
小鼓	成田 奏	池内 光之助
大鼓	山本 哲也	山田 薫
太鼓	上田 慎也	永田 克壬

狂言[口真似] Kuchimane 20分

シテ 太郎冠者	善竹 彌五郎	
アド 主人	小西 玲央	
アド 客人	上西 良介	後見 上吉川 徹

仕 舞

春日龍神	梅若 雄一郎	地謡 梅若 基徳
實 盛クセ	梅若 修一	寺澤 幸祐
殺生石	立花 香寿子	水田 雄晤
		梅若 秀成

～ 休憩 10分 ～

能[葛城 大和舞] Kazuraki Yamato-mai 90分

シテ 前シテ 里女	梅若 猶義	後見 梅若 基徳
後シテ 葛城ノ神	宝生 欣也	井戸 良祐
ワキ 山 伏	渡部 葵	地謡 梅若 堯之
ワキツレ 山 伏	小林 克都	林本 大
ワキツレ 山 伏	善竹 隆平	今村 哲朗
間 所ノ者	赤井 啓三	山田 薫
笛	上田 敦史	梅若 雄一郎
小鼓	守家 由訓	梅若 秀成
大鼓	上田 慎也	
太鼓		

終演予定 17時30分 頃

演目の解説

[俊寛]

平安時代末期～平家打倒の陰謀に加担した咎で、僧都の俊寛は平康頼・藤原成経と共に薩摩湯（鹿児島県南の沖合）の鬼界島に流されます。

噴煙に霞む活火山のある島で、草木も育ち難い場所。打ち沈む暮らしの中にも同志の存在が心頼りである日々。

その頃、都では高倉天皇に嫁いだ平清盛の娘・徳子の安産祈願の為に大赦が行われる事となり、因らずも鬼界島に後赦免の使者がやってきます。

赦免状から名前が外れた俊寛。幾度となく手紙を見ても自分の名前だけが見当たらず。絶望の淵に立たされる俊寛の哀れさは筆舌に難しいもの。

派手な動きは無いものの、心情を深く表現した謡が世の無常さを感じさせます。

[融] 梅若善高氏を偲んで

かの源氏物語の光君のモデルとも言われる源融。嵯峨天皇の皇子として生まれながらも臣下に降った融。権力争いに負け、京都六条河原に大邸宅を作り叶わぬ思いを秘めて贅を尽くした余生を送ります。

その執心が絶ちがたく、今も月明かりの夜には現れると言われるます。

能の世界では月の都に住まう貴公子として描かれており、昨年逝去された同門梅若善高氏を偲び子息の堯之が勤めさせて頂きます。

[口真似]

美味しいお酒は嬉しいもの。一人で呑むのも味気ないと酒の相手に面白い人を呼んで来いと主人に言われた太郎冠者。そこで太郎冠者が呼んできたのは酒乱で有名な人物。主人は声をかけた手前、追返すわけにも行かず、粗相してもならないと太郎冠者には自分の言うとおりにするようにと言うのですが…。

主人の期待に応えようと奮闘する太郎冠者の無邪気な様が心地よいお話です

[葛城 大和舞]

冬になると雪に覆われる葛城山。修行のため山伏が葛城山に訪れると吹雪に見舞われます。そこに里女が我家で暖をと声をかけ、自分の庵にと案内します。

標(しもと)と言われる薪を焚いて山伏をもてなしながら、古歌をもとに葛城山との深い謂われを話して聞かせます。もてなしで心も身体も暖かくなった山伏が勤行(ごんぎょう)を始めると、女は自分の苦しみも救って欲しいと願います。

この女は葛城の神であり、役行者の願いで修行者の為に、吉野山と葛城山を結ぶ岩橋を架けようとしたものの、期日に間に合わず役行者の法力により葛葛で戒められていると語り消え去ります。

女神の苦しみの思いを和らげようと祈禱を始めると、葛葛に身を戒められた姿で葛城の神が現れます。天岩戸の伝説に由来する[大和舞]神仏の加護を喜び美しく舞あげます。夜明けの陽の光に、自分の醜い姿を顕わにする事を恥じてまた磐戸のなかに姿を消して行きます。神秘的な世界を謡と舞で紡いでゆく奥深い能です。

大槻能楽堂 アクセス



〒540-0005 大阪市中央区上町 A 番 7 号

* 地下鉄 [谷町四丁目駅] 10 番出口より南へ 300m
11 番出口にはエレベーターがあります

地下鉄 [谷町六丁目駅] 7 番出口より北へ 350m

* 市バス [国立病院] 降車 南へ
(大阪駅からは 62 系統 [住吉車庫前] ゆき乗車)
(あべの橋《天王寺》からは 62 系統

[大阪駅前] ゆき乗車)